

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年5月7日

所属・職名	サービス造像学部・准教授	氏名	滝澤 淳浩
研究課題	企業活動における経営哲学とSDGs		
研究キーワード	協働システム、権威と責任、SDGs	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>今年度からテーマを「企業活動における経営哲学とSDGs」に変更し、この1年間研究を進めてきた。企業は、SDGsに關与する必要性を認識しているが、政府の動向や競合他社等の取り組みを睨みながらどのように対峙するかを未だに模索している。企業のCSR活動やSDGsへの取り組みについて2015年4月からスタートした経営学研究会(共同研究者:石井泰幸教授)において「環境関連」と「開発(人権)関連」に分けて2015年に国連でSDGsが採択に至るまでの背景となる動きを調査し、分析した。結果として企業経営者の持つ哲学の問題に突き当たった。</p> <p>企業経営者はステークホルダーと同様に、企業がSDGsに關与することが企業イメージの向上、社会の課題への対応、生存戦略になる、新たな事業機会の創出など企業価値の向上に繋がると認識している。しかし、ステークホルダーは同時に短期的な収益を生み出すといったバイアスを経営者に課している。企業はそのために環境負荷を低減する長期経営計画を立てなければならず、当然のことながらSDGsへの経営行動は先述の短期主義とは矛盾し、合理性を欠くことになる。従って、経営者はこのような矛盾を克服するために自身の哲学的思考を精鋭化する必要がある。</p> <p>経営学は哲学的位相の基盤にあり、その上で管理、組織、戦略へと展開する。バーナードの経営学の本質的テーマである「個人と組織の同時的発展」に注視し、その協働システムを展開する一つの手掛かりとして「責任と権威」についての研究も進めた。現在の組織理論が「権限と責任」に対し言及されていない。社会的責任論は無視することができない。したがって、現在の組織論の研究者は、この問題に対し伝統的な「権限と責任」の考え方に依拠せざるを得ず、これまでの「権限と責任」をお座なりにしてきた瑕疵が露呈した。バーナードの組織論での「権威と責任」が企業の様々な問題の解決の可能性を持つと私自身確信したのである。</p> <p>また、経営学研究会において経営学を哲学的視点で探究するロジックを考察してきた。特に哲学者プラトンの「普遍性」の考え方について研究してきた。「SDGsとCSR」の關係について研究を進めており、組織の社会的責任に関する国際規格「ISO26000」は世界初の包括的・体系的な文書で、環境保護、人権・労働、ガバナンスの7つ中核主題は「普遍性」である。普遍性は「共通了解」として具現化し、プラトンの形而上学を支えてきた。その結果として自然の原理の解明、自己の存在、自己と社会、他者との關係の意義が明らかにされたのである。また、バーナードの経営学には、基本的にプラトンの哲学的思想が通底しており、バーナードは、これまでの経済学的視点である経済人仮説から脱却し、人間觀を重視する全人仮説へと経営学の機軸を轉換するということが認識することができた。</p>			

2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【発表】 「大学におけるエシカル消費教育の取り組み」 日本計画行政学会、第42回全国大会、
2019年9月13日、徳島文理大学

[発表者] 滝澤淳浩（千葉商科大学）、今井重男（千葉商科大学）

【発表】 「環境保護を“推進する企業”と“教育する大学”～その取り組み事例と発展可能性について～」

環境情報科学センター、2019年度環境情報科学 研究発表大会、

2019年11月27日、日大会館

[発表者] 滝澤淳浩（千葉商科大学）、今井重男（千葉商科大学）

【発表】 「SDGs と CSR の関係について」 日本産業経済学会 分科会、2019年12月8日、千葉商科大学

【論文】 「SDGs とエシカル消費について～大学におけるエシカル消費教育～」

『CUC VIEW&VISION No. 49』 千葉商科大学経済研究所

3. 主な経費

- 経営哲学、CSR、SDGs の関連書籍及びそれに関連する情報機器や文房具等を購入。
- 学会、エシカル消費やフェアトレードの研究会等への参加費用。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

- 学長プロジェクト2：「CSR 研究と普及啓発」エシカル消費研究グループに所属。

以上